

大学教授法開発論

基本情報

科目名	大学教授法開発論(大学教員になるために大学での教授法を学ぶ)
英語科目名	Teaching Development in Higher Education
科目区分	大学院共通科目(2単位)
担当教員	戸村 理(Osamu TOMURA)
開講時限	木曜 3・4 講時 13:00~16:10 *途中休憩あり
実施方法	第 1~5 回:リアルタイムでのオンライン(Zoom の URL は Classroom に記載) 第 6~8 回:対面(川内キャンパス M203, 204 を予定。詳細は授業で連絡) 以上は通常通りの計画です。初回授業時に受講者と相談して変更する場合があります。
連絡先	(教員)tomurao@tohoku.ac.jp (スタッフ)tu-pffp@grp.tohoku.ac.jp
教授言語	日本語
オフィスアワー	水曜 2 講時(事前にメールください)
ウェブサイト	高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター 「大学教授法開発論/PFFP」 https://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/pffp/

授業の概要

この授業を受講される皆さんは、日々大学院で研究活動に取り組まれていると思います。そして将来的には大学教員としてのキャリアを希望される方が多いかと思えます。現在の日本の大学・高等教育機関で大学教授職すなわちアカデミックポストを獲得するには、研究能力に加えて教育能力が重視されることが少なくありません。これまで日本の大学院では、自立して研究を行うための教育・指導は行われてきましたが、自立して学生に教育を行うための教育は十分に行われてきませんでした。関心も世代も異なる多様な学生を相手に効果的で効率的な教育を行うには、それ相応の準備が必要です。この授業では、日本の大学・高等教育機関の現状や学生の特徴に始まり、汎用的な学習理論や効果的な教育手法を学んだ上で、授業の内容や組み立て、成績評価のあり方についても学び、シラバスやクラスデザインの作成に取り組みます。そしてこの授業の学びの総まとめとして、模擬授業を実践します。これにより自らの授業を分析・設計・開発・実施・評価する自己省察力を身につけます。

以上がこの授業の概要ですが、この授業の特徴は他にもあります。それは以上の学びを、多様な専門領域からなる受講者相互の学び合いによって実践することです。研究室で日常的に行われるコミュニケーションとは勝手が異なることもあるかと思えます。ですが、「大学・高等教育機関＝専門領域が異なる大学教員の集合体」という特徴を理解するためにも、貴重な機会としてこの授業をご自身のアカデミックキャリアを築き上げる上での基礎として役立てていただければと思います。

なお新型コロナウイルス感染症は、大学・高等教育機関における教育方法に大きな影響を与えました(正確には変化の必要性を顕在化させ、そのスピードを加速させたと言っても良いかもしれません)。従来の対面授業に加え、オンラインやオンデマンド、ハイフレックス型といった多様な授業実践方法についても学ぶことで、受講生の大学教員としての初期アカデミックキャリアの形成に資することを目指します。

授業の目的

この授業では、日本の大学・高等教育機関で教員を目指す本学大学院学生が、現代日本の大学教育・高等教育で求められる基礎的知識を習得し、自分自身で授業を分析・設計・開発・実施・評価する自己省察力を身につけることを目的とします。

到達目標

- ・日本の大学・高等教育の現状を理解し、説明することができる。
- ・学生主体型の授業を設計することができる。
- ・自分自身の授業を分析・設計・開発・実施する自己省察力を身につけることができる。
- ・学んだ知識を踏まえてシラバス・クラスデザインを作成し、模擬授業を実施することができる。

- ・他の受講生に建設的なフィードバック・評価を行うことができる。
- ・専門領域が異なる受講生とコミュニケーションをとり、相互理解を深め、良好な学びの空間を作るよう努力する。
- ・研究活動と同様に、教育活動も探求し続ける姿勢を身につけ、実践することができる。

キーワード

大学教育のユニバーサル化、学位プログラム、大学教育改革、教育の質保証・学習成果、カリキュラム、学生理解、モチベーション、シラバス、クラスデザイン、評価、大学教授法・アクティブラーニング、学習時間・単位制度の実質化、授業形態の多様化、TA と作る授業、教育と研究の相互探求

授業の進め方・スケジュール

(1) 授業の進め方

- ・基本的に次のような流れで授業を進行する予定です。
前回の内容確認→本日の内容と到達目標の確認→講義・演習・グループワーク・ディスカッション→まとめ
- ・事前学習と事後学習については、(2)スケジュールをご覧ください。なお毎回の授業で具体的に指示します。

(2) スケジュール

- ・各回の授業内容の概要等は以下のとおりです。
- ・授業資料や課題については、Google Classroom 上にアップします。
- ・スケジュールや授業内容は、学生の履修状況を考慮し変更する場合があります(その場合は授業中に説明)。

第 1 回(4/13) インTRODクシヨン、大学・高等教育の現在 ※オンライン(リアルタイム)

概要 大学教授法開発論による。授業の初回であるため、まずはこの授業の概要や目的、到達目標、各回の授業内容、授業運営上の注意事項等について、詳細シラバスを資料に説明します。続けて受講生による自己紹介を行い、受講生同士の相互理解を図ります。最後に日本の大学・高等教育の現在について、とくに大学教育のあり方をめぐる現代の議論を整理し、現代大学教育が抱える課題を構造的に理解します。

演習 ユニバーサル段階においてどのような大学教育が求められるか、専門領域の視点も交えて検討します。

課題 [事前]

- ・詳細シラバスを一読する。
- ・演習用資料に目を通してくる(授業ではすぐに演習に取り組んでもらうので、必ず一読してこること)。

[事後]* 締切は 4/16(日)

- ・リフレクションペーパー①を Google Classroom から提出

第 2 回(4/20) 学生理解・教授法・授業設計論 ※オンライン(リアルタイム)

概要 担当する授業の内容に精通していることは当然ですが、授業を履修する学生の理解もまた重要です。現代大学生が置かれている状況を理解した上で、学生が主体的に学んでいくためにはどのような点に注意すべきかについて学びます。具体的にはモチベーションの構造を理解し、モチベーションや主体性を喚起して、効率的・効果的な学びを実現する上で有益な教授法や授業設計について学び、実践します。

演習 学習意欲をいかに喚起するかについて、いくつかの側面に分割して具体的事例から検討します。

課題 [事前]以下の文献を一読

- ・スーザン・A・アンブローズ他(栗田佳代子訳)(2014)「第 3 章 学習のモチベーションを高める要素」『大学における「学びの場」づくり』玉川大学出版部、pp.74-94.
- ・鈴木克明・美馬のゆり編(2018)「第 11 章 学習意欲を高める」『学習設計マニュアル』北大路書房、pp.116-125.

[事後]* 締切は 4/23(日)

- ・リフレクションペーパー②を Google Classroom から提出

第 3 回(4/27) 評価 ※オンライン(リアルタイム)

概要 評価が重要であることに疑いはないはずですが、評価の意義を考えたことはありますか。近年の大学

教育では学習成果の可視化が求められています。評価は測定しようとする事象に対して、適切な方法で適切な時期に、正しく実施することが求められます。そのような評価は、学生の成長だけでなく、教員のよりよい授業実践も可能にします。所属組織やカリキュラムの質保証にも寄与する評価のあり方を学びます。

演習 具体的な評価ツールであるルーブリックを作成し、その使用可能性を多角的に検討します。

課題 [事前]以下の文献を一読

・吉田文(2017)「学習成果の可視化に関する政策動向」『IDE 現代の高等教育』No.590, IDE 大学協会、pp.11-18.

・松下佳代(2017)「学習成果とその可視化」『IDE 現代の高等教育』No.590, IDE 大学協会、pp.18-24.

[事後]*締切は 4/30(日)

・授業中に作成したルーブリックを完成させ提出

・リフレクションペーパー③を Google Classroom から提出

第 4 回(5/11) シラバスの作成 ※オンライン(リアルタイム)

概要 今回の授業では自身が担当する授業科目を想定してシラバスを作成します。日本では形式的に見られるにすぎないシラバスですが、シラバスは学生・教員・機関それぞれにとって重要な役割を持つものです。シラバスの意義を確認した上で、シラバスに記載すべき事項を実践的に学んでいきます。これまでの授業で学んだ基礎事項を総動員して、授業 15 回分の内容が盛り込まれたシラバスを作成します。

演習 学生の主体的学びを実現するシラバスについて検討し、実際に作成します。

課題 [事前]

・東北大学 1 年生を対象とする授業科目(全学教育科目または学部の基礎的共通科目)のシラバス案を考えてくる。*作成は第 4 回授業内に行うので、15 回分の授業内容を考えてくるだけでよい。

・中島英博編(2016)「6 章 シラバスを作成する」『授業設計』玉川大学出版部、p.55-70.

[事後]*締切は 5/14(日)

・授業中に作成したシラバスを完成させ提出

・リフレクションペーパー④を Google Classroom から提出

第 5 回(5/18) シラバスの共有・検討とクラスデザインの作成 ※オンライン(リアルタイム)

概要 前回のシラバス作成に続いて、今回は 1 回分の授業設計を検討するクラスデザインの作成を行います。シラバスに総論として記載した各回の授業内容を、90 分という授業時間のなかでどのように展開すればよいでしょうか。学ぶべき事項をどのように体系化して配置するのか、講義や演習、ワークをどのように実施するのか、効果的な教授法は何か、そしてどのように評価するのか、これらについて総合的に検討します。

演習 学生の主体的学びを実現するクラスデザインについて検討・計画します。

課題 [事前]

・前回授業で検討したシラバスにある 15 回分の授業のなかから適当な 1 回分を選択して、クラスデザイン案を考えてくる。*作成は第 5 回授業内に行うので、該当する授業回の具体的なイメージを考えてくるだけでよい。

・中島英博編(2016)「第 1 部 授業設計を始める前に」『授業設計』玉川大学出版部、p.2-54.

[事後]*締切は a.と b.は 5/21(日)とし、c.は第6回当日までに完成させておくこと。

・a. 授業中に作成したクラスデザインシートを完成させ提出

・b. リフレクションペーパー⑤を Google Classroom から提出

・c. 模擬授業の教材準備

第 6 回(5/25) 模擬授業① ※対面

概要 大学教育に関する基礎的事項を学び、シラバス、コースデザインの作成を終えた皆さんによる模擬授業を実施します。想定となる対象は東北大学 1 年生です。限られた時間のなかで、いかに効率的で効果的な授業を行うことができるのか。これまでに作成したシラバスやクラスデザインシートを共有しながら、他の受講

者やオブザーバーの前で模擬授業を行い、フィードバックを得て、授業改善までのプロセスを経験します。

演習 模擬授業の実施 *一人あたりの実施時間は、受講者数によって変更

課題 [事前] *文献はあくまでも参考資料扱い。講読は義務ではない

・模擬授業の準備

・邑本俊亮(2012)『大学の授業を運営するために——認知心理学者からの提案』東北大学高等教育開発推進センター。

[事後] *締切は a.は 5/28(日)とし、b.は第 7 回当日までに完成させておくこと。

・a. リフレクションペーパー⑥を Google Classroom から提出

・b. 模擬授業(改善版)の教材準備

第 7 回(6/1) 模擬授業② ※対面

概要 前回の模擬授業で明らかになった課題をクリアして、模擬授業を再度行ってもらいます。シラバスやクラスデザインシートの共有に加え、振り返りレポート⑥も共有しながら、他の受講者やオブザーバーの前で模擬授業を行い、フィードバックを得て、再度、授業改善までのプロセスを経験します。

演習 模擬授業の実施

課題 [事前]

・模擬授業(改善版)の準備

[事後] *締切は 6/4(日)

・リフレクションペーパー⑦を Google Classroom から提出

第 8 回(6/8) 模擬授業の振り返り・まとめ ※対面

概要 1 週間の時間が経過した段階で、模擬授業の様子を撮影した動画をグループで検討し、より客観的な視点で模擬授業の様子を再検討します。またこれまでの授業内容を振り返り、今後の大学教育の方向性や課題について検討します。

演習 模擬授業の実施 *時間は受講者数によって多少の変更あり

課題 [事前][事後]

・なし

成績評価

以下の①～③の合計で評価します。

①授業への出席・参加 25%

②リフレクションペーパー・課題提出 45%

内訳	振り返りレポート	2%×7 回	14%
	課題提出	ルーブリック	8%
		シラバス	15%
		クラスデザイン	8%

③模擬授業 15%×2 回 30%

〈注意〉

・授業への出席・参加については、授業への参加姿勢で評価します。授業内に実施する演習やグループワーク、課題について、積極的に取り組むことで評価します。明らかに授業運営に支障をきたす姿勢が確認できた場合、減点の措置を取ります。

・この授業では基本的にすべての授業回の参加(出席)を原則としています。また各種課題やレポートについても、原則、全て提出を基本とします。

・**模擬授業(2 回)は必須とします。やむを得ない事情で実施がかなわない場合は、予定がわかった時点で必ず担当教員に連絡してください。1 回でも無断での未実施があった場合や、(事前連絡があっても)2 回とも実施がかなわない場合は、単位修得を認めません。**

・第 4～7 回の授業では[事前][事後]課題の負担がやや大きいです。日々の研究活動に支障をきたさないよう、

あらかじめ計画的に準備するなどご注意ください。

各採点基準

振り返りレポート

- ・当該授業回の学習内容を正確に理解し、それを踏まえた考察がなされていること。

ルーブリック・シラバス・クラスデザイン

- ・授業で説明した各種要点に配慮して作成されていること。
- ・実現(使用)可能性が担保されていること。

模擬授業

- ・採点基準はあらかじめ模擬授業実施前に提示します。受講者やアドバイザーによるピアレビューで評価します。

授業へのパソコンの持ち込み

- ・必要

教科書・参考文献

教科書は特に定めません。したがって以下は参考文献です。授業内容にはこれらのエッセンスを含めていますので、時間が許される場合にご参照ください。どれも入手しやすく、購入しても損はしない文献です。

- ・栗田佳代子・日本教育研究イノベーション編(2017)『インタラクティブ・ティーチング——アクティブ・ラーニングを促す授業づくり』河合出版。
- ・鴻上尚史(2012)『発声と身体のレッスン増補新版——魅力的な「こえ」と「からだ」を作るために』白水社。
- ・佐藤浩章編(2010)『大学教員のための授業方法とデザイン(高等教育シリーズ)』玉川大学出版部。
- ・佐藤浩章・栗田佳代子編(2021)『授業改善(シリーズ 大学の教授法 6)』玉川大学出版部。
- ・鈴木克明監修(2016)『インストラクショナルデザインの道具箱 101』北大路書房。
- ・鈴木克明・美馬のゆり編(2018)『学習設計マニュアル——「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。
- ・中村長史・栗田佳代子編(2021)『インタラクティブ・ティーチング 実践編 1 学びを促す授業設計——クラスデザインの作法と事例集』河合出版。
- ・夏目達也編(2010)『大学教員準備講座(高等教育シリーズ)』玉川大学出版部。
- ・中島英博編(2016)『授業設計(シリーズ 大学の教授法 1)』玉川大学出版部。
- ・佐藤浩章編(2017)『講義法(シリーズ 大学の教授法 2)』玉川大学出版部。
- ・中井俊樹編(2015)『アクティブラーニング(シリーズ 大学の教授法 3)』玉川大学出版部。
- ・中島英博編(2018)『学習評価(シリーズ 大学の教授法 4)』玉川大学出版部。
- ・近田政博編(2018)『研究指導(シリーズ 大学の教授法 5)』玉川大学出版部。
- ・西岡加名恵・石井英真・田中耕治編(2015)『新しい教育評価入門——人を育てる評価のために』有斐閣。
- ・Trow, M.(1973). Problems in the Transition from Elite to Mass Higher Education.

授業時間外の学習方法

- ・前述の「授業の進め方・スケジュール」で示した[事前][事後]課題に取り組んでください。[事前][事後]課題であげられている文献については、Google Classroom 上にアップします。
- ・興味関心があり、時間的余裕があった場合には、上述の参考文献を読んでみてください。

履修について

〈基本的な点〉

- ・本授業の履修に際して、事前の知識や経験(大学での教育経験や TA 経験等)の有無は問いません。大学や高等教育機関の教員となり、教育活動に従事することを目指す本学大学院学生(博士後期課程)の積極的な履修を期待しています。
- ・基本的に授業に関する各種連絡には、Google Classroom(東北大アカウント)を介して行います。Google Classroom へのアクセスや送受信などの設定については各自で確認しておいてください。

- ・本授業科目はクォーター科目です。履修するにあたってはその点、ご注意ください。
- ・成績評価の箇所でも言及しましたが、この授業は皆さんの授業に対する積極的な姿勢を前提としています。したがって、**基本的にすべての授業回の参加(出席)を原則とし、各種課題やレポートについても全ての提出を基本としています。**また**模擬授業(2 回)も必須としており、1 回でも無断での未実施があった場合や、2 回とも実施がかなわない場合は、単位修得を認めません**のであらかじめご了解ください。
- ・本授業は、オンライン(第 1～5 回)と対面(第 6～8 回)での授業運営を計画しています。現時点ではオンデマンドでの提供は考えていません。これは本授業が、専門領域の異なる受講者間でのインタラクティブなコミュニケーションによる「気づき」に重点を置いているためです。
- ・なお新型コロナウイルス感染症の状況次第では、授業運営計画に変更が生じる場合があります。

重要！〈受講者数と受講決定方法〉

- ・本授業では、受講者数の定員を 24 名としています。これは同一の目的を持つ本学大学院生が比較的短期間の間に少人数で集中的なトレーニングを行うことで、大きな教育効果をあげることはもちろん、専門領域や国籍を超えて未来を創造する大学教員集団としての同僚意識を醸成するためです。
- ・そのため受講希望者が定員を超える場合に限り選考を行います。選考基準は登録フォーム入力項目のうち、「自身の研究テーマ・内容」および「大学教授法開発論を受講する理由や動機」の記述について、簡潔性・明瞭性・論理性から総合的に判断します。なお年次や所属研究科等のバランスを考慮する可能性があります。
- ・**受講を希望される方は、必ず 2023 年 4 月 10 日 23:59 までに高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センターのウェブサイト(大学教授法開発論/PFFP <https://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/pffp/>)にアクセスし、登録フォームへの入力を行ってください。**
- ・**選考結果や履修確定の通知は、4 月 12 日までにメールでご連絡します。**

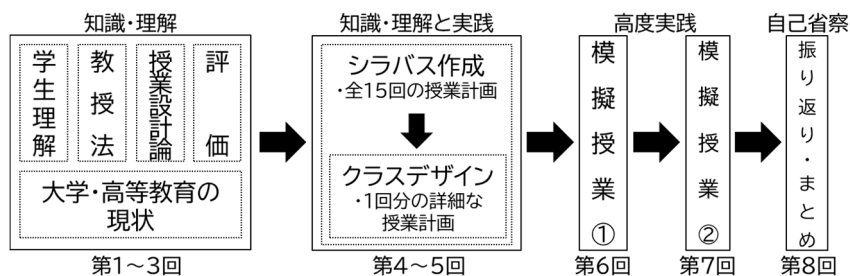
修了認定書について

- ・本授業で定めた所定の活動を修了した受講者には、修了認定書(日本語・英語)を交付します。修了認定書は、本学 TA 制度における TF(Teaching Fellow)の資格要件を満たす証明書として利用することができます。
- ・加えて大学・高等教育機関における教育研究職公募の際、大学における教育経験を示す証明書として、公募書類に添付することが可能です。
- ・オープンバッジの発行も可能です。こちらは授業内でご連絡いたします。

さいごに

- ・この授業は大学や高等教育機関での教育研究職を目指すみなさんが初期キャリアを円滑に築く事ができるようサポートすることを目的とした授業です。また研究活動の進捗や学位取得に配慮して、受講者のみなさんが、できるだけ少ない負担で、できるだけ多くの効果や経験をえられるような授業設計にしています。担当教員やアドバイザーは全力を尽くしますが、最終的には、みなさんの「やる気」が最も重要です。担当教員・アドバイザーと受講生との間に信頼関係を築き多くの効果や経験を紡ぎ出せるよう、授業への積極的な参加ならびにより良い空間・雰囲気作りにご協力ください。皆さんの受講をお待ちしています。

参考:大学教授法開発論の全体構造



〈大学教授法開発論の目的と構成〉

- ◎現代日本の大学教育・高等教育で求められる基礎的知識を理解
- ◎自分自身で授業を分析・設計・開発・実施・評価する自己省察力を習得